

キクの新品種「アロママ」デビュー

～「アロママ」を生産する蟹江町鉢物部会の取組～

玉越文典（海部農林水産事務所農業改良普及課）

【平成22年12月22日掲載】

【要約】

キクの新品種「アロママ」は、広島大学と中部電力株式会社（以下「中電」という。）が共同で開発した新しいタイプである。最大の特徴は、甘くてさわやかな香りで、他にも葉の色、形状に特徴があり、鉢花用として9品種がある。

「アロママ」の試作段階から中電と関わり、平成22年8月から出荷を始めた蟹江町鉢物部会18名（以下「部会」という。）の取組を紹介する。

1 「アロママ」との出会い

平成20年秋、中電のエネルギー応用研究所（名古屋市緑区）で開催されたテクノフェアに、部会の有志が参加した。この時、面白そうな品目として「アロママ」（写真1）があった。新しい品目を探していた部会と試作農家を募集していた中電側との思惑が一致し、翌年試作、さらに、平成22年の本格的な生産につながった。



写真1 アロママの花（直径約2 cm）

2 「アロママ」の生産開始

平成22年5月に、部会は生産、販売について契約書を交わした後、本格的な生産を5名の部会員が開始した。部会は、8月下旬の出荷を目指して月1回の研究会を開催し、技術の向上に努めた（写真2）。また、研究会には「アロママ」開発に携わった中電社員や花き市場担当者等を招いて、商品化に向けたアドバイスを受けてきた。



写真2 研究会の様子

3 生産者の不安

部会は、昭和40年からポットマムを栽培しており、鉢花栽培の歴史がある。しかし、「アロママ」は従来のポットマムに比べボリュームがないこと、猛暑により最大の特徴である香りが弱くなること、市場の評価が予想より低いこと等により、出荷時期が近づくにつれて生産者の間で、この品目は売れるのかという不安が高まっていった。

この品目は売れるのかという不安が高まっていった。

4 PR活動と出荷、課題

不安の高まりに反し、8月3日の中電主催の記者発表以降、消費者や花屋から市場等への問い合わせが殺到した(写真3)。この日を境に、「アロمام」は売り手市場に変わった。生産者は、注文に応じきれぬかが心配となるほどであった。

そして、8月18日に記念すべき初出荷を迎えた。当日は、生産者全員が集まり、出荷調整作業を手伝いながら、花き市場向けの500鉢を市場へ送り出した。この様子は中京テレビの取材を受けて放映された(写真4)。

出荷は、11月末をもってほぼ終了した。生産販売量は、約2万鉢であった。また、部会は、中電の関連会社やメナード青山リゾートでのPR活動に協力した。さらに、東京都夢の島熱帯植物館では、部会員が出向いてPR活動や即売会を行った。これらの活動を通して、ボリュームがないこと＝かわいらしい、甘い香りの評価がとても高いこと、などの消費者ニーズを把握できた。

一方で、以下のような課題も浮き彫りとなった。

- ①生産する上での品種特性が十分にわかっていないこと。
- ②高温期の香りが弱いこと
- ③周年出荷体制が出来ていないこと



写真3 記者会見の様子



写真4 中京テレビの取材

5 「アロمام」のこれから

平成23年は、市場を始め小売店や消費者からの要望が強かった新品種の生産がスタートし、3月から出荷が始まる。今年の「アロمام」は、黄色の品種のみであったが、白色とオレンジ系の2色が新たに仲間に加わる予定である。

今回の取組を通して、生産者はマスコミの力の大きさを再認識するとともに、中電等の他業種と連携することによるメリットを把握できた。今後も農業改良普及課では、部会に対して品質向上のための技術支援、さらに中電やメナード青山リゾート等との連携による販売促進により、「アロمام」がより一層売れるよう支援していきたい。